

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

「自園の保育システムを見直し、各自が段取り力、行動力、アピール力を身に付ける」

- * 自分たちの保育の良さをしっかり他者へ伝えられるようになる。
- * 日々の書類の提出期限を守り、タイムリーに改善点を見つけて直していく。
- * 部署ごとに研究テーマを持ち、他施設との交流や、情報交換を進めて専門的視野を深める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目(課題)	取り組み状況
① 書類の提出期限が守られず、全体に段取りが悪く、タイムリーに物事が進んでいない。	主任、部署主任が中心となって、声掛けすることで、期限を守って提出する姿勢が定着した。また、行事に関しては、5週間前から段どりを組んで動けるように、システム化し、行事係だけが把握するのではなく、どの職員も進捗状況を把握できてサポートできるので良かった。
② 良い保育(給食、看護部門含む)をしていても保護者への説明や、広報の仕方が弱い。	テロップで保育の写真や、その日の給食を掲載して伝えるだけでなく、送迎時にもっと保護者へ保育の様子を具体的に伝えようということを目指した。幼児クラスは、中央のエントランス以外に、幼児エントランスで対応することも加えたので、保護者と直接、お話しする機会も増えた。日常の様子を動画配信したことも効果があり、年度末の保護者アンケートでは、統計を取り始めた平成23年以降で、最高となる55.8%の方に、総合評価で大変満足との回答をいただいた。
③ 他施設との交流が少なく、保育のレパートリーが少ない。また、良い保育をしていても今後の資料としての記録が纏まっていない。	コロナの影響で、他施設との交流はなかなか進まず、今年度もポラリスこども園と、年長児が合同で宿泊保育を行ったことくらいしか、交流ができなかった。そんな中で、アワードバンケットに向けて、幼児、乳児クラスで1つずつはノミネートしようと取り組めたのは、研修効果があった。また、職員全員が一緒にアワードバンケットの最終発表を見られたのは、今後の保育活動に良い影響が出ると感じた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・アピール力は、保護者への言葉がけなどがうまくなり、保育の様子を具体的に伝えられるようになってきている。その反面、伝え方が上手な職員と、そうでない職員の差が出てきているので、どの職員も、一定の水準のレベルに引き上げたい。年度末の保護者アンケートでは、主要項目のほとんどで大変満足の評価が昨年度以上となった。これは、自分たちのやっている活動を保護者の方にきちんと説明をして認めていただけたことによるものと、評価ができる。

・段どり力は、かなりレベルアップしてきたが、一部、指示待ちな部分が見られる。今後は先輩の指示がなくても動けるように、今年システムを継続して行う。

5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

課題	具体的な取り組み方法
① 子どもの心に寄り添い、子どもの自己肯定感を伸ばす言葉がけを心がけているが、一部でネガティブな言葉がけや言動が見られる	・園独自の自己評価表を作成して、前期、後期で振り返り、主任評価を加えて自己研鑽していく。 ・子どもへの言葉がけについて園内で研修し、子どもの発達につながる適切な言葉がけを意識して使えるようにする。
② 園内の情報共有がタイムリーにできていなかったり、認識に差が見られる。また、優先順位を考えて動けていない部分が見られる。	・毎日発信する職員報告メールの記述方法を決め、必要な情報にメリハリをつける。 ・クラス内では、週案立案時に漏れている情報はないか、確認しあって進める。
③ 他施設との交流や、研修機会が少なく、保育のレパートリーが少ない。また、個々の力量はアップしていてもチームで動く時の連携が悪い。	・他施設と交流(職員・園児)したり、自主的な研修機会を多く設ける。 ・研究テーマを絞って、好きな研究チームに入って専門知識を高める。

6. 学校関係者の評価

令和3年度は総じてみて、前年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせた運営がより一層、求められた一年であったと言える。法人に所属する各施設は特に緊急事態宣言の発令や蔓延防止等重点措置の適応がいち早く出される地域であったことから、常に先行事例がない中で、ウイルスの変異や社会からの要請、また何より管轄する行政によって指示される内容のみならず、対応の早さの違いといった様々な変動する要因に対応して、法人本部と各施設、あるいは保育士と看護師といった様々な部門、階層での重層的で密接な連携強化が行われ、お子様の健全なる成長に寄与する保育と保護者様への就業支援という法人の存在意義を余すところなく発揮してくれたことが総括として感じられることである。

具体的にはコロナ禍の移動制限にかまけることなく、積極的にICTを利用した多くの研修や様々なミーティングを積み重ねることで人材育成に努められ、更には保育の見える化にもICTを十二分に活用されることで保護者の皆様のご理解を深める活動にも注力されていたことが印象的であった。このようなICTの活用は、今後においても発展的に活用されていく予定であるとのことなので大変期待できる。

特筆すべきは、年に一度、開催されているアワードバンケットという取り組みである。アワードバンケットは各施設、あるいは各職員が日ごろ培ってきた新しい保育方法や教材の開発にとどまらず、保護者様への対応、地域との連携、人材育成方法、経営管理といった複数のカテゴリーにおいて研究発表を各分野における外部の専門家の評価及び指導を受けるイベントであり、それを活用して各施設や各職員が持つ暗黙知を形式知化して組織全体へ切磋琢磨しながら学び、波及させていく試みは実質的なスキルの向上にとどまらず、全体的なモチベーションと専門職である保育士というプロフェッショナルリズムの向上と活性化に大きく寄与していたと思われる。特に、令和3年度はICTを使い、全職員がリモートで参加できるようにしたことは前述したこの間に得られた優れたICTの活用であり、新しい試みであったと言える。

三密が忌避される中で保護者様との連絡が通常より難しくなったと言われることが多いが、全ての職員がモバイル端末を以前から常に携帯しており、それを使っての物理的な距離を超えたより一層の緊密で濃密な連絡や報告、相談が日々、行われていたことに大変感心した。その他、高評価を頂いているビュッフェや基準以上の職員配置など特色ある運営は変わらず行われており、変化は無かったことにも安心させられた。

ただ、ICT化への先行投資や新型コロナウイルス感染拡大への対応のための出費などの必要なことではあったが、決算予測としてやや厳しい状況にあることが報告されており、そのことが今後の注意すべき大切な課題であると考えます。

次年度以降も、予算の適切な執行に基づいた保育と就業支援の理想的展開を心掛けていかれることを理事会及び評議会としては連携して管理監督していくつもりである。